

(宛先) 教育指導課長

学校名 鈴鹿市立旭が丘小学校

学校長名 三浦 靖樹

校内研究実施計画書

I 研究主題及び教科

研究主題	生きて働く言葉の力の育成 ～「きく」から思考が深まり・広がる対話～
教科・領域	国語科・領域全般

II 主題設定の理由

1 これまでの研究の経過

本校では課題を「自分の思いや考えをもつこと、それらを文章や言葉で相手に伝えること」と捉え、国語科を通した研究を推進してきた。

令和6年度からは「生きて働く言葉の力の育成」を研究主題に掲げ、「授業展開の工夫」「語彙や表現の獲得」「主体的な学び」の3本柱で取り組んだ。その結果、学習の目的が明確化され、ICT等を活用して自ら情報を整理し、問いを追究しようとするこどもの姿が見られるようになった。

令和7年度は、「対話的な学び」を通した表現力の向上を試みた。特に対話における「きく（聴く・訊く）」ことの指導に重きを置いた。「聴く」とは、相手を理解しようと自ら進んで耳を傾け、自分の考えと比較しながら聞くことである。「訊く」とは、聴いたことから生じた疑問をもとに、相手に尋ねる・問うことである。この両輪の「きく」を充実させることで、言葉の力を向上させ、豊かに伝え合えるようになるという仮説のもと実践を重ねた。その結果、相手を尊重して最後まで聞く姿勢が育ち、高学年では言葉の選び方や質問の仕方にこだわるなど、表現力の向上が見られた。一方で、語彙量や経験の差により思いを伝えきれないこどもや、対話を通して「考えを広げる・深める」までには至らないといった課題も残された。

2 学習指導要領とのかかわり

学習指導要領では、育成すべき資質・能力が三つの柱で示されている。

(1) 「知識及び技能」

言葉の特徴や使い方、情報の扱い方等の知識を、日常生活の様々な場面で活用で

きる「生きて働く力」として習得させることが肝要である。

(2) 「思考力、判断力、表現力等」

日常生活の中で思いや考えを伝え合う力を高め、論理的な思考や豊かな想像力を養う。系統性で見ると、自分の思いや考えを、低学年で「もつ」、中学年で「まとめる」、高学年で「広げたり深めたりする」とされており、本校の課題解決に向けて全学年で重点的に指導にあたる必要がある。

(3) 「学びに向かう力、人間性等」

言葉のよさを実感し、伝え合おうとする態度を養う。特に「言葉のよさ」は、低学年で「感じること」、中学年で「気付くこと」、高学年で「認識すること」と系統化されている。言葉の働きを意識し、そのよさや役割に興味を持つ感性を育てることは、他の二つの柱を支える「国語科の基盤」となる力である。

3 研究の主題と重点

以上の成果と課題を踏まえ、本年度も引き続き国語科全領域において、研究主題を「生きて働く言葉の力の育成 ～「きく」から思考が深まり・広がる対話～」と設定する。

今年度は、単元計画の中に対話活動を位置づけ、昨年度重点化した「きく（聴く・訊く）」を継続しつつ、さらに「対話を通じた思考の深まり・広がり」を目指す。

「生きて働く言葉の力」の定義

言葉を正しく理解し、順序立てて自分の言葉で適切に表現できる力

他者と考えを深め合い、相手の心を動かすような表現を用いて豊かに伝え合える力

「対話活動」の定義

こどもが必要感をもって相手を求め、互いに受け入れ、より納得感のある考えを導き出す活動

☆目指すこどもの姿

「やってみたい」という願いをもち、他者との交流を通して「みんなで考える方が、より良いゴールに辿り着ける」という実感を伴って学習を進める姿

これらの学習を通じ、「国語が好き」と思えるこどもを育てることを、教育活動の土台として大切にしていきたい。

Ⅲ 研究内容及び方法

1 今年度の研究について

(1) 研究構想

めざす学校・こども像

「すべてのこどもに居場所とやる気を保障できる学校」

「知・徳・体の調和がとれ、主体的・協働的に行動できるこども」

研究主題

生きて働く言葉の力の育成

～「きく」から思考が深まり・広がる対話～

研究目標（めざすこどもの姿）

「やってみたい」という願いをもち、他者との交流を通して「みんなで考える方が、より良いゴールに辿り着ける」という実感を伴って学習を進める姿

目標達成に向けた仮説と手立て

【仮説①：自分の考えをもつために】

こどもの疑問や気づきを起点とした導入の工夫をすることで、児童は解決の見通しをもち、自らの考えをもつことができるだろう。

☆手立て：こどもの「なぜ？」や「やってみたい」を活かした課題設定
こどもが見通しをもつことができる単元計画

【仮説②：対話による深まり・広がりを目指して】

互いの考えを比較・検討する「聴く・訊く」活動を仕組みば、自分の考えを広げたり深めたりしながら、納得感のある答えを導き出すだろう。

☆手立て：対話（聴く・訊く）を支える話型や揭示の工夫

【仮説③：対話してよかったと実感するために】

学習の終わりに「思考の変容」を自覚するふり返りを行えば、他者と学ぶことのよさを実感することができるだろう。

☆手立て：変容が見える化された板書の工夫

こどもの思考のプロセスをふり返ることのできるワークシートの活用
対話による変容を価値付ける教師の発問・声かけ

(2) 研修体制

今年度は「授業改善グループ」とその土台となる「基礎学力グループ・その他」の2つのグループ体制とする。

研究主題 生きて働く言葉の力の育成 ～「きく」から思考が深まり・広がる対話～	
授業改善グループ 研修会での学びなどを通して授業の質を高める	基礎学力グループ・その他 学習の「土台」となる習慣、環境、心を整える
・ 研修推進・授業力向上 全体研修会・提案授業の運営 年間指導計画・夏期研修会の取りまとめ ・ ICT・分析・朝の学習 ICT 活用提案・ミニ研修 全国学調・みえスタの分析と目標提案 朝の学習（対話の練習） 読む書くワークシート	・ 学習習慣・環境の整備 読書活動（図書管理・委員会・取組提案） 家庭学習・自主学習（手引き作成・啓発） 学習規律（がんばっ１０）・掲示物の整備 ・ 心とキャリア・外部連携 道徳教育（仲間づくり） キャリア教育 環境教育・幼小中連携

2 具体的な取組内容

(1) 授業改善に向けて

◎研究目標達成に向けた手立て

① 自分の考えをもつために（仮説①へのアプローチ）

- ・見通しをもつことができる単元計画を立てる。
単元の導入で、こどもが最後（ゴール）に「誰に」「何を」伝えるかを明確にし、見通しをもてる学習計画を作成する。
- ・叙述を基に「なぜ？」や「やってみたい」とこどもが考えたくなる課題づくり
初発の感想を仲間と交流する中で生まれた「なぜ？」という疑問や「あれ？」といったズレを大切にし、こどもが叙述を基に考える必要性を感じられる課題づくりをする。

② 深まり・広がる「対話」の場づくり（仮説②へのアプローチ）

- ・「聴き方あいうえお」の掲示
どのような姿勢が相手の話を「聴く」ことにつながるのかをこどもたちが理解・実践するために「聴き方あいうえお」（あ：相手を見てい：いい姿勢でう：傾きながら え：笑顔で お：終わりまで）を掲示する。対話活動の際に確認することで、「聴き方」を意識できるように指導する。
- ・「訊き方カード」の掲示
訊くときに使う言葉（いつ・どこでなど）をまとめたものを掲示することで、質問するときのヒントになることを期待する。対話活動の際に確認することで、「訊き方」を意識できるように指導する。
- ・「考え方カード」の掲示
仲間の考えを聴くときに大切な考え方をまとめたカードを掲示する。低～高学年へと発達段階に応じて内容を変え、仲間の考えをどう捉え自分の考えにつなげるのかを考えるヒントになることを期待する。

低学年：同じか違うか（〇〇さんと同じで～など）

中学年：部分に注目（〇〇さんの～は同じだけど、一のところは違うなど）

高学年：自分の考えにどうつなげるか

（〇〇さんの意見の～に納得したから、自分の考えに付け足して～など）

③ 対話のよさを実感するためのふり返りや価値づけ（仮説③へのアプローチ）

- ・思考のプロセスが見える板書やワークシートの工夫
授業の終わりに、クラス全体の考えがどう深まったか、矢印や枠などを用いて「思考の軌跡」が見える板書を工夫する。
- ・ふり返り指導の充実

「今日の対話で、自分の考えのどこが変わったか（あるいは変わらなかったか）」「友達のどの言葉が、納得につながったか」など、対話の価値を実感できるふり返りを行う。

◎全国学力学習状況調査（みえスタディ・チェック）について

全国学力学習状況調査（みえスタディ・チェック）の自校採点・分析を全職員で行い、こどもの強みや弱みを共通理解する。そして、こどもの強みを活かしたり、弱みを補完したりできる単元計画を各学年で考える。

また、こどもの実態把握のため、独自のこどもアンケートも作成し、実施する。

（２）基礎学力の定着に向けて

１ 読書活動の充実

- ・週２回（月・水）の朝学習で読書に取り組む。
- ・読書記録カードへの記入を徹底する。
- ・図書ボランティアによる読み聞かせを計画する。
- ・先生おすすめの本を紹介する。
- ・教科と連携した並行読書に取り組む。
- ・図書館で本を借りる習慣づけを各学級・学年で工夫する。

２ 家庭学習の取組

- ・宿題は授業の内容に結びついた課題（主に国語・算数）と音読を各学年・学級に応じて取り組む。音読は、こどもが目的意識をもって取り組めるように指導する。
- ・「家庭学習の手引き」を保護者へ配付する。家庭学習の意義や家庭での取り組み方、時間の目安等を保護者に周知することで、学校と保護者が一体となった基礎学力の定着の取組を推進する。
- ・学期に１回、家庭学習強化週間を実施し、合わせて自主学習強化月間（週間）を設ける。
- ・３年生以上で自主学習に取り組む。学年に応じた自主学習の取り組み方について提示し、自ら課題を設定し、自主的に学習を進める力を育む。

３ 朝学習の取組

- ・週３回（火・木・金）の朝学習は国語のモジュール学習を行う。（１５分）
- ・１～４年生は「読む・書くワークシート」、５～６年生は「よむYOMUワー

クシート」を活用する。

4 がんばっ１０の取組

- ・学習規律の定着を図るため、がんばっ１０に取り組む。１０項目ある中から重点目標を定め、定期的に取り組む。

IV 年間計画

一 学 期	4月 1日	研修部会	今年度の組織体制と役割分担
	4月 2日	研修部会	今年度の年度初めの統一事項等について
	4月 7日	研修部会	今年度の研究の方向性の検討
	4月 22日	みえスタディ・チェック	(5年)
	4月 23日	全国学力学習状況調査	(6年)
	4月 28日	みえスタディ・チェック	(4年)
	5月 7日	研修部会	研修実施計画の検討
二 学 期	5月 11日	第1回全体研修会	研修実施計画の提案・検討
	5月 18日	研修部会	授業提案等の年間計画について あさひっ子アンケートの提案・検討
	6月 3日	第2回全体研修会	授業提案・事後検討会① (事前検討会 月 日)
	6月 15日	研修部会	あさひっ子アンケート結果について ※6月上旬に第1回あさひっ子アンケート実施
	7月 21日	研修部会	第3回全体研修会の内容検討
	8月 4日	第3回全体研修会	研究主題に関わる研修 全国学力学習状況調査の結果分析
	8月 20日	研修部会	
三 学 期	9月 14日	研修部会	2学期の研修について
	9月 28日	第4回全体研修会	提案授業・事後検討会② (事前検討会 月 日)
	10月 13日	研修部会	
	11月 16日	研修部会	
	12月 1日	研修部会	今年度の研修のまとめについて
三 学 期	1月 8日	研修部会	
	1月 20日	研修部会	
	2月 3日	第5回全体研修会	今年度のふり返りと来年度に向けて
	2月 8日	研修部会	
	2月 日	みえスタディ・チェック	(5年)
	2月 10日	第6回全体研修会	提案授業・事後検討会③ (事前検討会 月 日)
	※2月上旬	第2回あさひっ子アンケート実施	
三 学 期	3月 3日	研修部会	研究紀要について

※全教員、年1回以上の公開授業を実施

※ミニ学習会は、定期的に企画・実施の予定